



日本健康教育学会のご案内

健康教育とヘルスプロモーションの研究と実践のための学会です。
 専門家と実践家が集い、エビデンスや経験を議論し共有（シェア）
 することをめざしています。

新理事（任期H23.6～H26総会）の抱負をお伝えします。



岩永俊博（財務担当理事）

地域や職域に暮らす、さまざまな課題を持った人たちが、安心して心地よく、健やかに日々を送ることができるような風土を、それぞれの地域、職域に実現することができればと思っています。（地域医療振興協会）

理事長 衛藤 隆

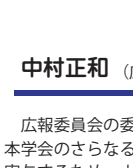


健康教育を共通基盤となる概念として様々な領域の人々が繋がり、学問を追究できる場を提供していきたいと考えます。学び、対話し、交流することを通じ自己啓発が得られ、何らかの新たな発信を一人ひとりが出来るなら素晴らしいと思います。イノベーションは簡単ではありませんが、日々、自らが新鮮味を感じることに出来る取り組みを積み重ねることにより、それが可能になると思います。（日本子ども家庭総合研究所）

武見ゆかり（総務担当理事）



事務局を預かって3期目になります。超有能なスタッフのボランティア精神に支えられた体制から、誰が担当しても無理のない安定した事務局体制にし、次の代に引き渡すための3年と頑張っていきます。私の専門は食・栄養ですが、食を通じた健康教育・ヘルスプロモーションは何のためか考えると、やはり究極は、(狭義の)健康を超えて、しあわせづくりにないだろうかと思うこの頃です。（女子栄養大学）



中村正和（広報委員長）

広報委員会の委員長として、本学会のさらなる発展に寄与するため、ホームページのコンテンツの充実（新着情報、年次学術大会の内容、教材紹介など）と定期的更新、メールマガジンの新たな発行など、ITを活用した広報機能の強化を図り、会員ならびに健康教育やヘルスプロモーションに興味のある関係者に対して有用な情報発信を行いたいと考えています。そのために、広報委員会のメンバーの拡充、コンテンツ作成とその定期的更新のための体制づくりに取り組みます。（大阪府立健康科学センター）

武藤 孝司（国際交流委員長）



本学会は国際組織である International Union for Health Promotion and Education (IUHPE：ヘルスプロモーション健康教育世界連合) とつながっています。2012年5月に台湾で開催された The Second Asia-Pacific Conference on Health Promotion and Education (第2回アジア太平洋ヘルスプロモーション健康教育学会) に参加しました。（獨協医科大学）



神馬征峰（編集委員長）

- 1 現場の声を重視
 - 2 年間投稿数 50 以上を維持
 - 3 Medline への登録
- みなさまからの投稿を期待しております。（東京大学大学院）

第 20 回学術大会学会長

筒井昭仁（基本問題委員会）

歯科では、8020 運動、健康日本 21、健康増進法に歯の健康が取り入れられるなど、診療や地域活動において健康や生活に関わりを持ち取り組みが増えています。これらはまさに Health Promotion であり、健康教育の比重が増してきました。（福岡歯科大学）

第 22 回学術大会学会長

高橋浩之（基本問題委員長）

大学3年生の時、教育学部健康教育学科に進学して健康教育学に係わることになってから早30年以上の時が経過しました。その当時は、たいした知識もないのに日本や世界の健康教育を変えられるという確信めいたものを持っていたように記憶しています。健康教育をもっと良くしたいというその時の情熱をもう一度思い出して学会の発展に貢献したいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。（千葉大学）



吉田 亨（奨励賞選考委員長）

様々な分野の研究者と交流できるのが、この学会の魅力です。若手の積極的で継続的な参加を期待しています。日本における、健康教育とヘルスプロモーションの中心的な学会であり続けたいと願っています。（群馬大学大学院）



第 21 回学術大会学会長

星 旦二（総務・財務委員会）

三年ぶりに理事に選定いただきました、感謝いたします。健康長寿を支える方法論は、ヘルスプロモーションですし、その基礎理論は、リスクを探索する医学モデルだけではなく、優れた点を紡いでいく健康理学（健康学）と思います。多くの学会員と協働して、優れた実践方法論を用いた成果を重視する科学を構築する学会として発展できることを願っています。よろしく申し上げます。（首都大学東京）



岡田加奈子（国際交流委員会）

養護教諭の行う健康教育、ヘルスプロモーション活動が専門です。本学会では、国際交流委員会副委員長として、世界のIUHPE/NPWP とつなぐ仕事をしたいと思っています。（千葉大学）

小山 修

（基本問題委員会）

この学会は、異職種、異分野、異世代の会員と気さくに交流できるのが大きな特色です。活動や研究のアイデア、ヒントを欲しい方、疑問をお持ちの方など歓迎します。まずは学術集へご参加を。（日本子ども家庭総合研究所）



守山 正樹（国際交流委員会）

私は「健康についての考えを可視化し働きかける」ことに関心があります。今の関心事は「東日本大震災後の現状で健康教育ヘルスプロモーションは何か出来るか」です。旧理事会では「様子を見守る」というご意見が中心でした。しかし理論と実践のいずれでも「今しなければならぬこと、出来ること」は数多くあります。新理事の皆様、新委員会を創るなどして、学会として出来ることを始めませんか。遅くなり過ぎないうちに！（福岡大学）

福田 洋（広報委員会）（国際交流委員会）

職域における働き盛り世代の健康教育・メタボ対策に取り組んでいます。研修医時代から参加していますが、職種を越えた横断的な交流・議論が魅力の楽しめる学会です！IUHPE(健康教育・ヘルスプロモーション世界会議)で世界に繋がっており、日常の健康教育・患者教育から大きな予防医療への繋がりを実感できる学会です。是非皆様のご参加をお待ちしています！（順天堂大学）



荒尾 孝（国際交流委員会）

現在、健康教育学会においては身体活動・運動分野の会員数が少なく、学会発表も栄養分野に比べて極めて少ない状況にあります。健康の保持・増進に関する研究とその実践においては栄養と身体活動領域のバランスのとれた発展が必要であり、今後身体活動・運動分野の会員数と研究発表の増加のために微力ながら努力をしたいと思います。（早稲田大学スポーツ科学学術院）



赤松 利恵

（編集委員会）
（栄養教育研究会委員長）

健康教育の定義はいくつかありますが、その中でも「健康教育とは知識と実践のギャップを近づけること」という Griffiths の定義をとても気に入っています。本学会は健康教育の研究と実践の両方を大切にしています。この定義を借りると、まさにギャップのない学会です！（お茶の水女子大学）



朝倉 隆司（編集委員会）

専門は、学校保健（特にメンタルヘルス）、保健医療社会学（健康社会学）です。今期初めて理事に選出されました。これまで3期にわたり編集委員を務めました。今期も神馬編集委員長の下で働きます。不定期で刊行が危ぶまれた時代から比べると、隔世の感があります。充実した雑誌づくりに貢献したいと思つています。近接の学会や学問領域があるなか、本学会が存在を示せる取り組みや方向性も考えてみたいと思つています。（東京学芸大学）

深井 雅博（編集委員会）



口腔保健は、誰にでも身近な生涯にわたる健康課題です。しかも、この10年の間に疫学研究の分野でも、寿命や身体症状との関係が次々と報告されるようになってきました。食べることで、他者との交流など口腔保健に関わる行動変容は、人々が、生きる力、健康を造り出す力をもつようになるプロセスの一つです。本学会におけるこの分野が、多職種の連携によってさらに発展していくことを期待すると共に、微力ですが努力したいと思つています。（深井保健科学研究所）